

防災センターの活動スペースのあり方

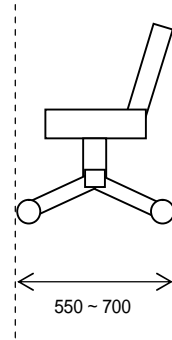
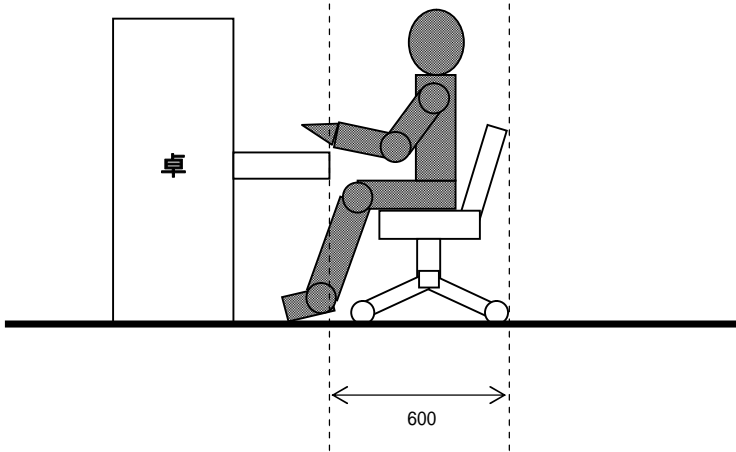
平成 1 7 年 6 月

防災センター評価委員会

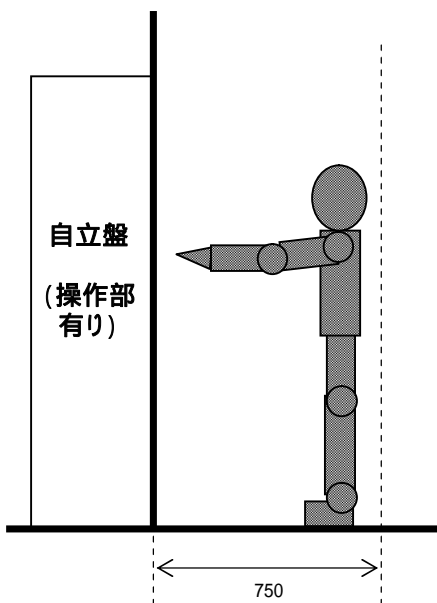
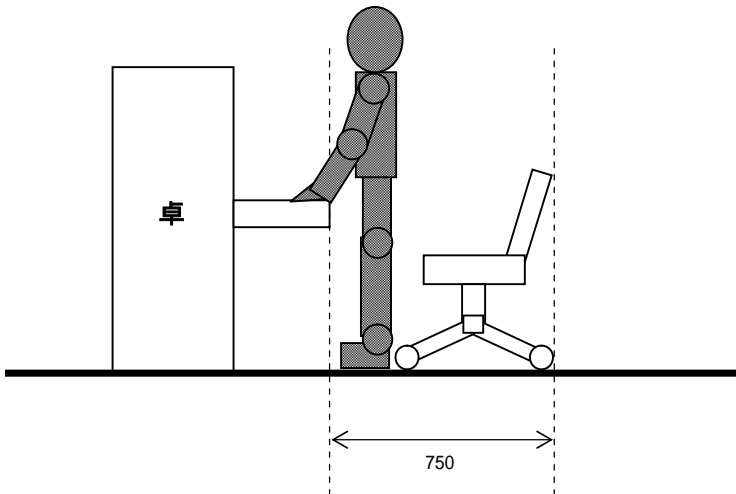
社団法人東京消防設備保守協会

防災要員の基本監視サイズ

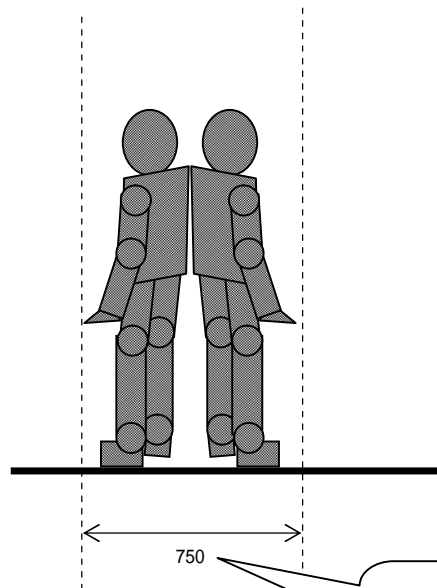
防災要員



防災センターで使用される一般的な椅子の奥行は550～700mmとなっているが、700mmは背もたれが後方に伸びた状態のサイズのため、通常の監視状態の椅子のサイズは550mmとなる。

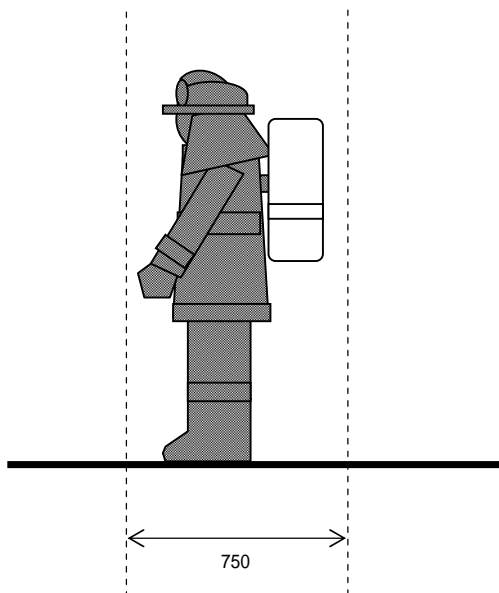
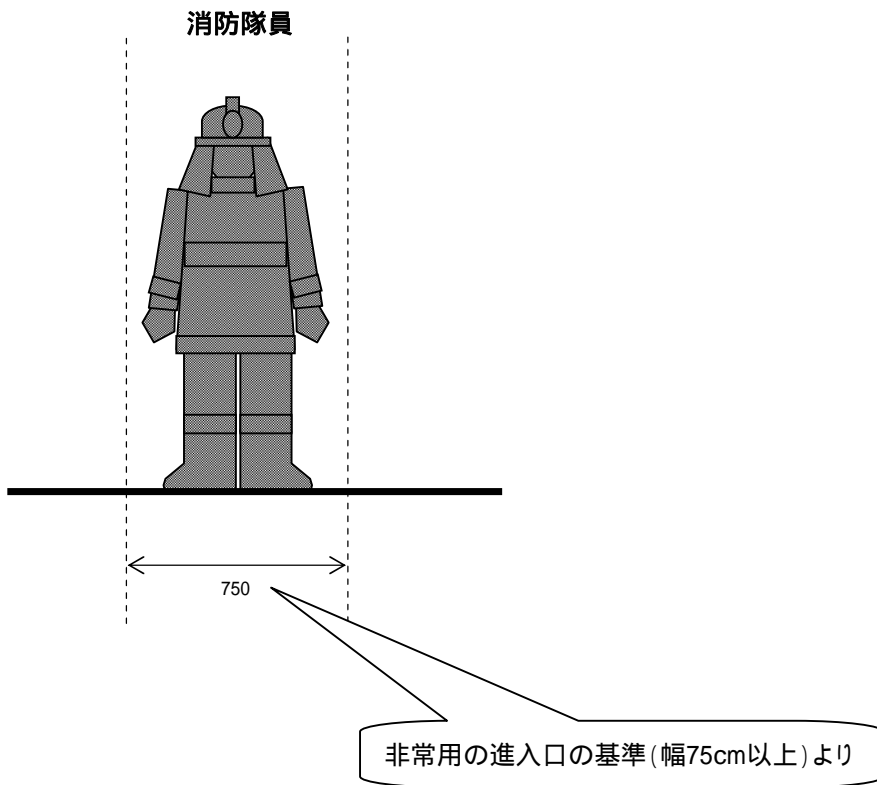


多少余裕を持たせた幅

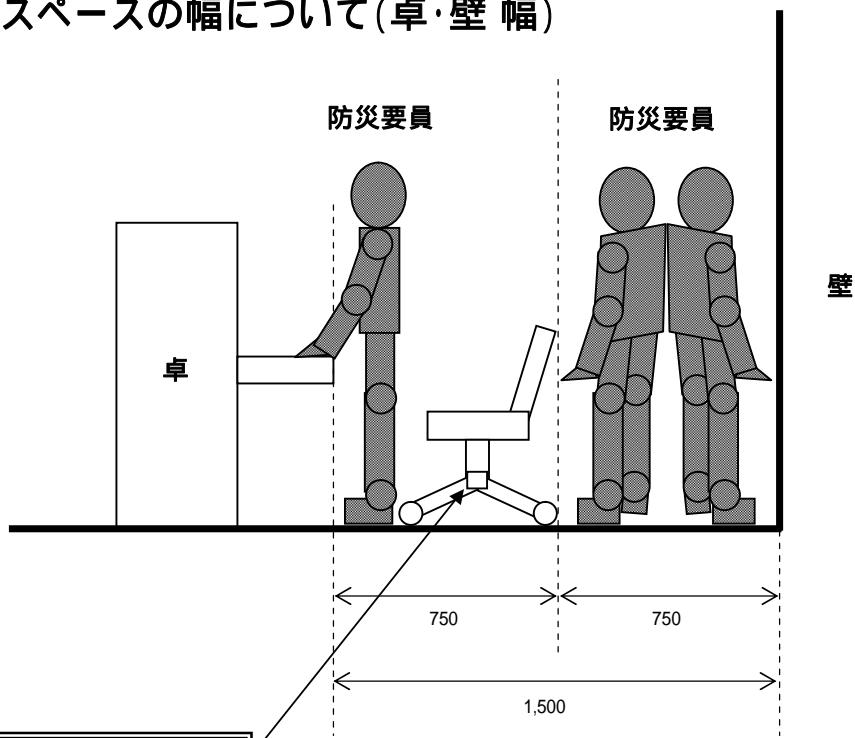


多少体をひねることによりすれ違い可能な幅

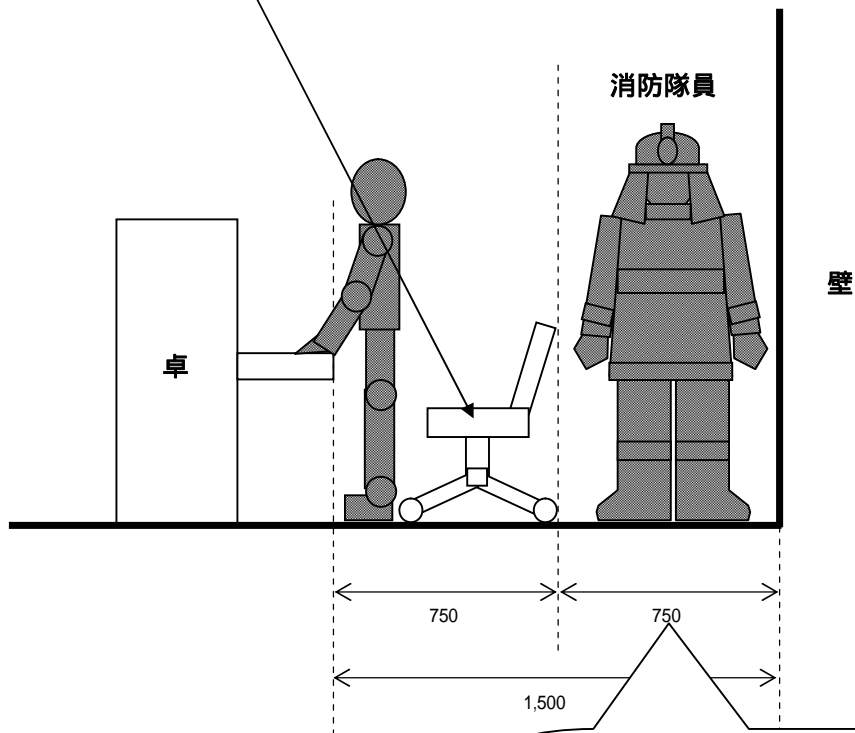
消防隊員の基本サイズ



監視スペースの幅について(卓・壁幅)



非常時は、必要に応じ椅子を移動して幅を有効利用することも可能。

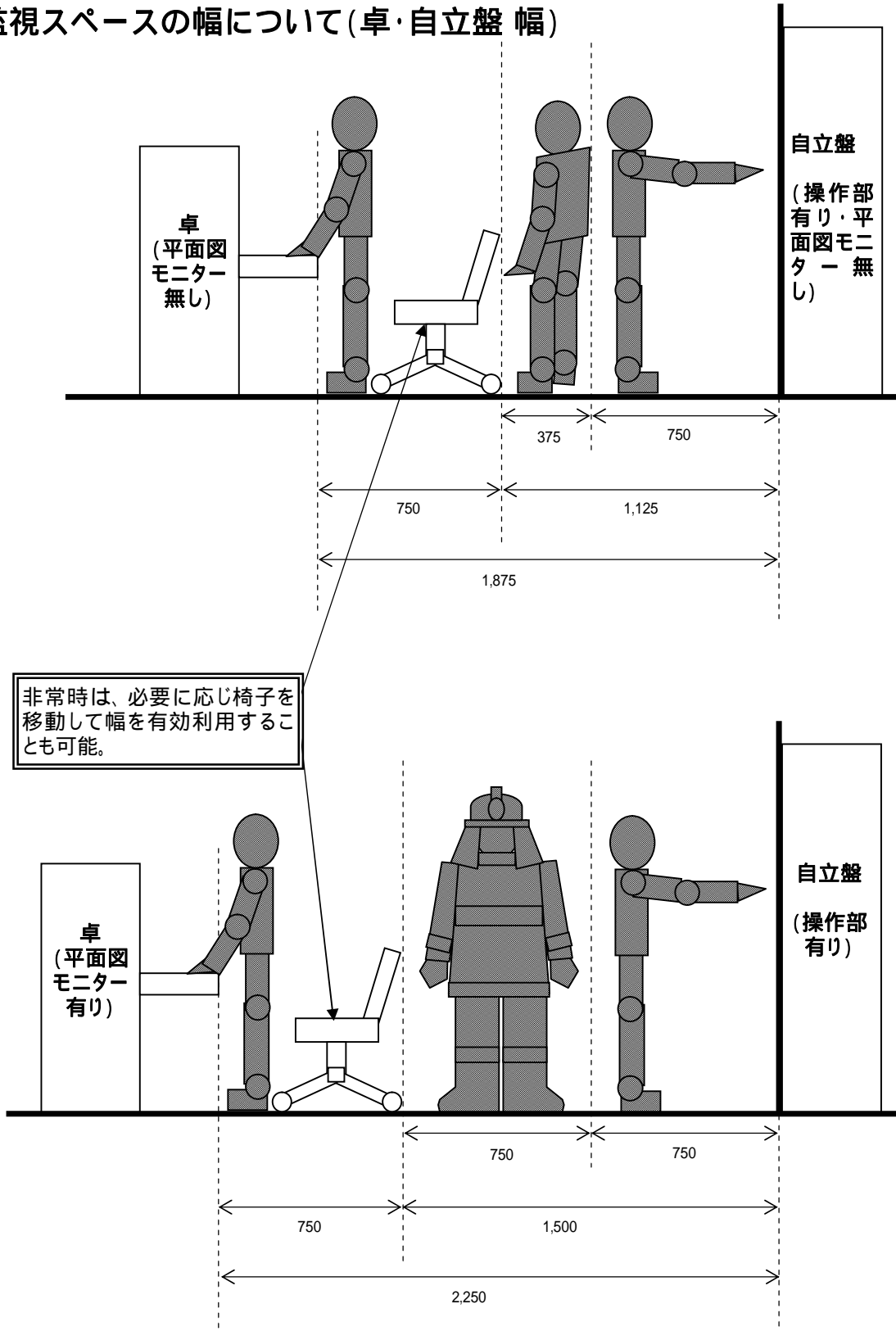


消防隊が装備を着装した状態でも通れる幅又は防災要員に指示できる幅
 消防隊(指揮隊のうち防災要員に指示する隊員)は空気呼吸器を着装していないことが多い

卓から壁までに必要な監視幅
 約1.5m

注) 監視スペースの幅については、点検時等に支障がある場合は拡幅が必要

監視スペースの幅について(卓・自立盤 幅)

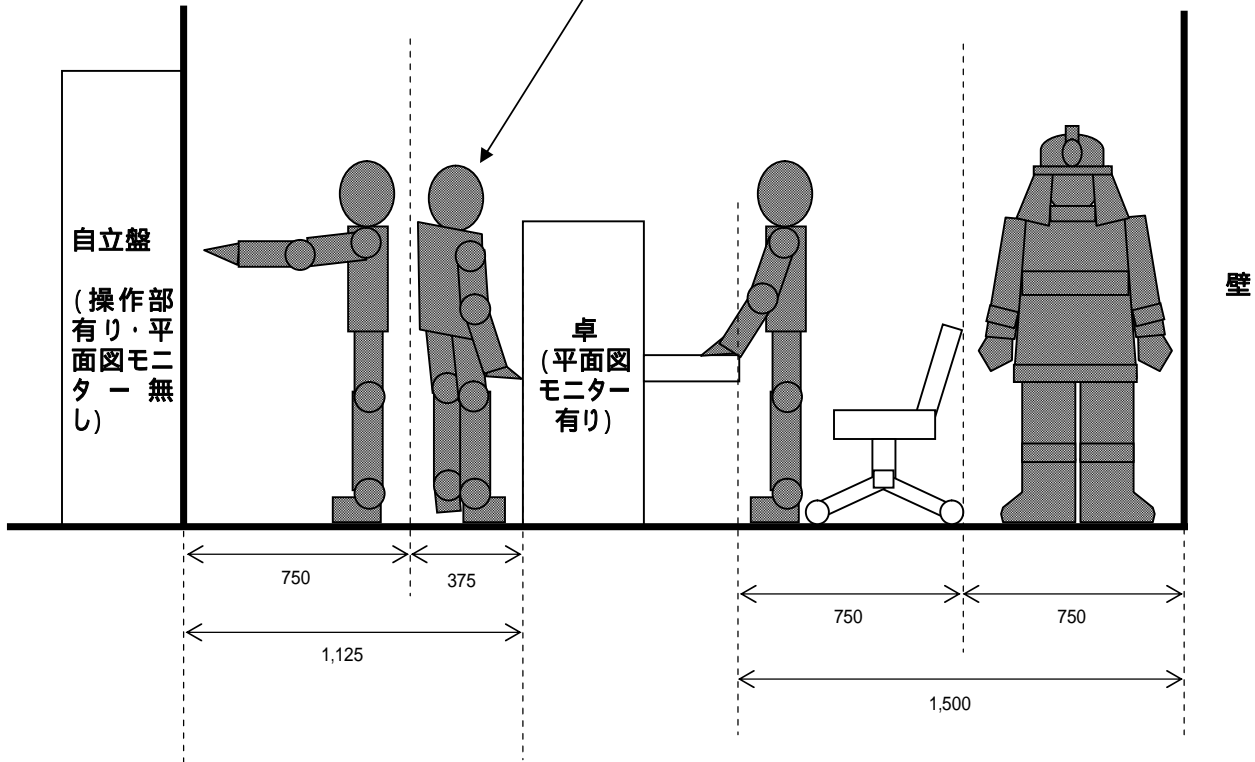


卓から操作部のある自立盤までに必要な監視幅
約 2 m
(椅子の移動、要員の操作幅(750mm)の多少の余裕を考慮)

注) 平面図モニター: 総合操作盤の表示部(建物平面図画面)

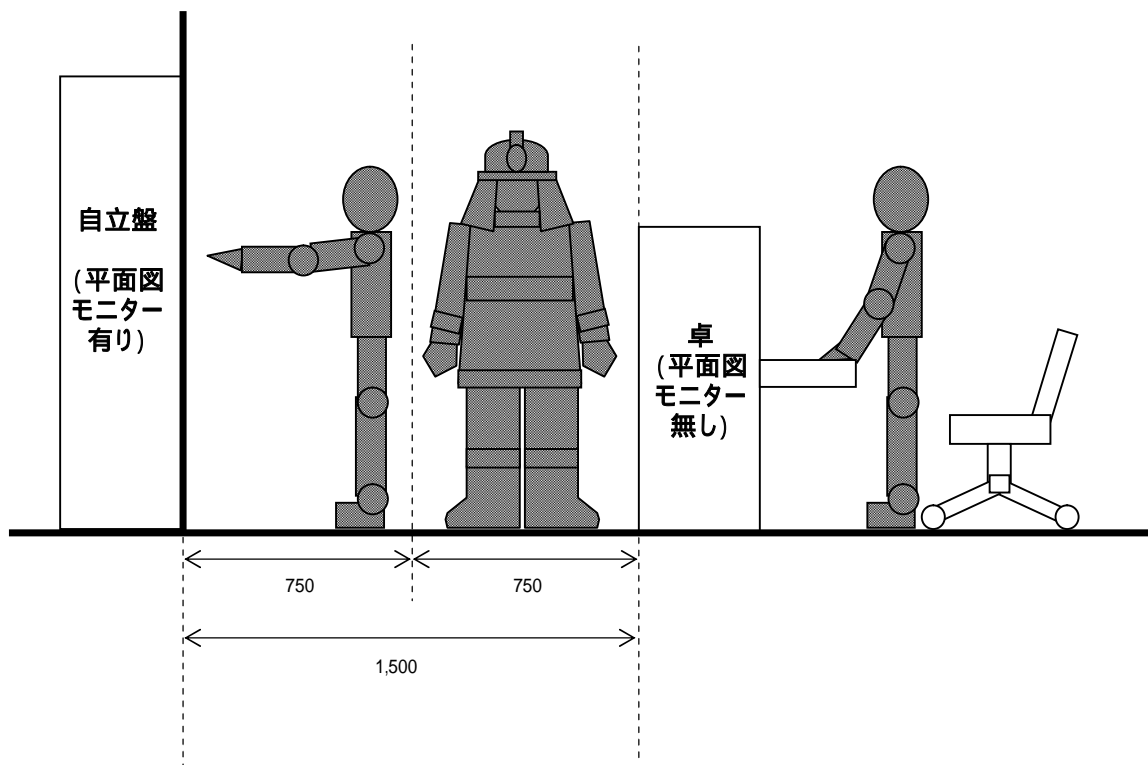
監視スペースの幅について(自立盤・卓幅1)

消防隊(指揮隊)が主に活用するシステム装置は、総合操作盤の平面図モニターであるため、卓に平面図モニターが設置されている場合については自立盤と卓の幅の決定要素に消防隊員が必要とする幅を考慮する必要はない。
 ただし、卓と壁の幅は考慮する必要有り



卓に平面図モニターが設置されている場合の自立盤と卓の監視幅
 約 1 m
 (要員の操作幅(750mm)の多少の余裕を考慮)

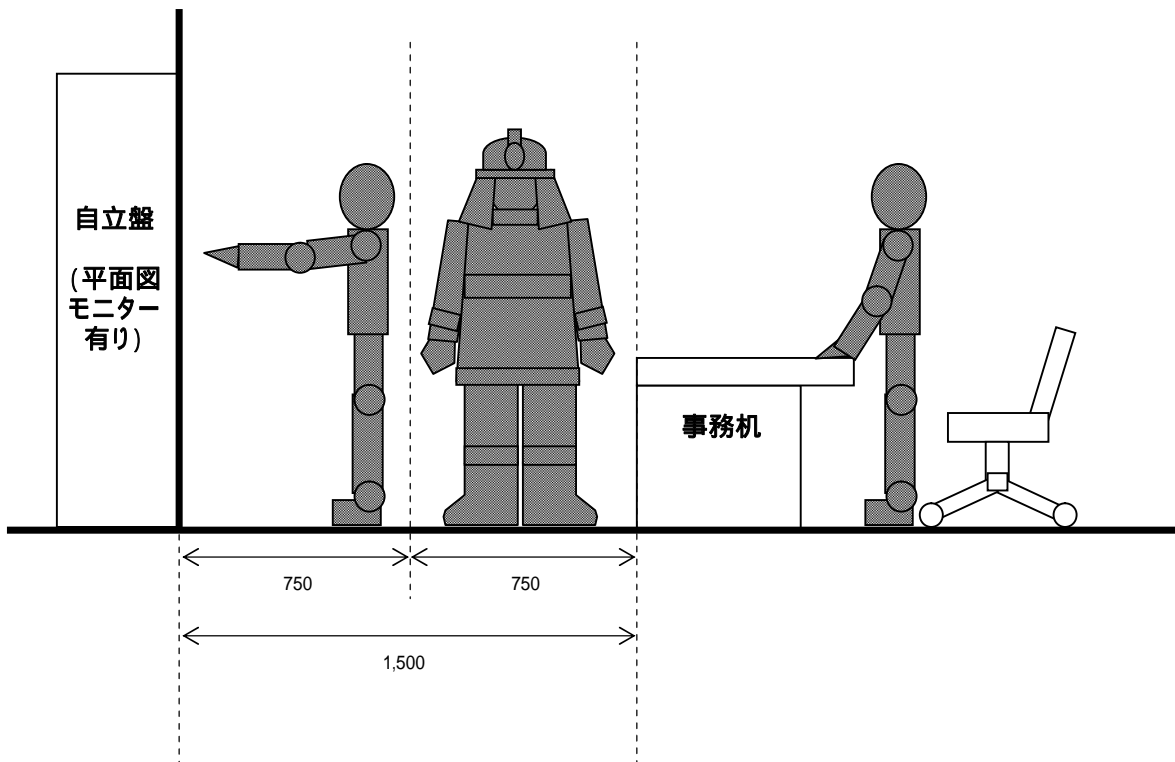
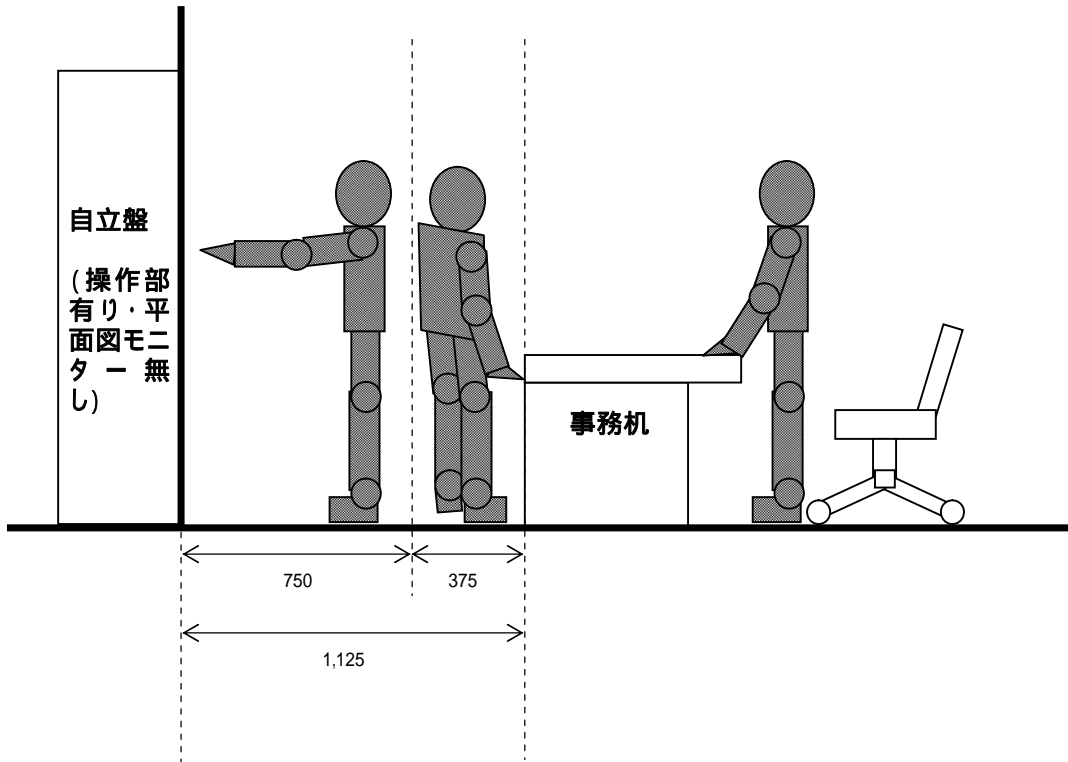
監視スペースの幅について(自立盤・卓幅2)



自立盤に平面図モニターが設置されている場合の自立盤と卓の監視幅

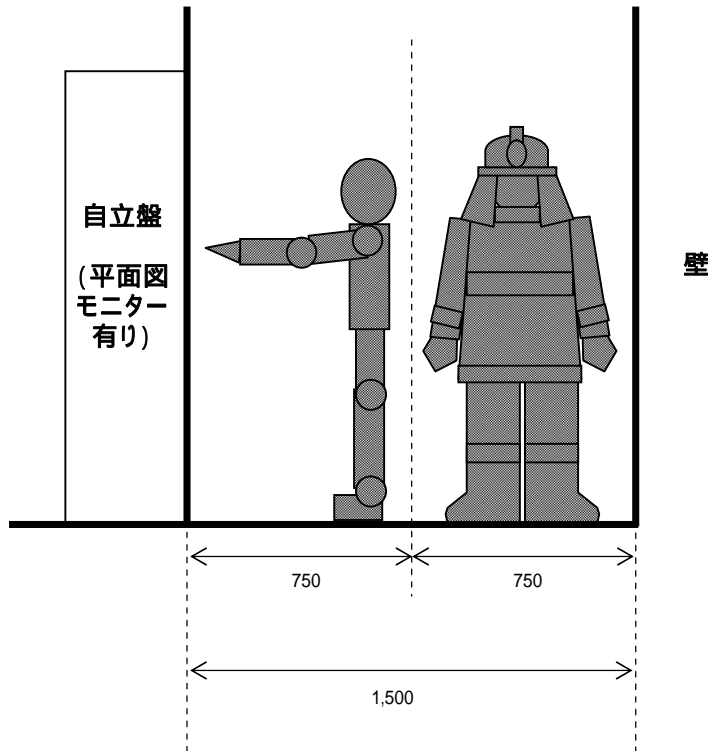
約1.5m

監視スペースの幅について(自立盤・事務机 幅)



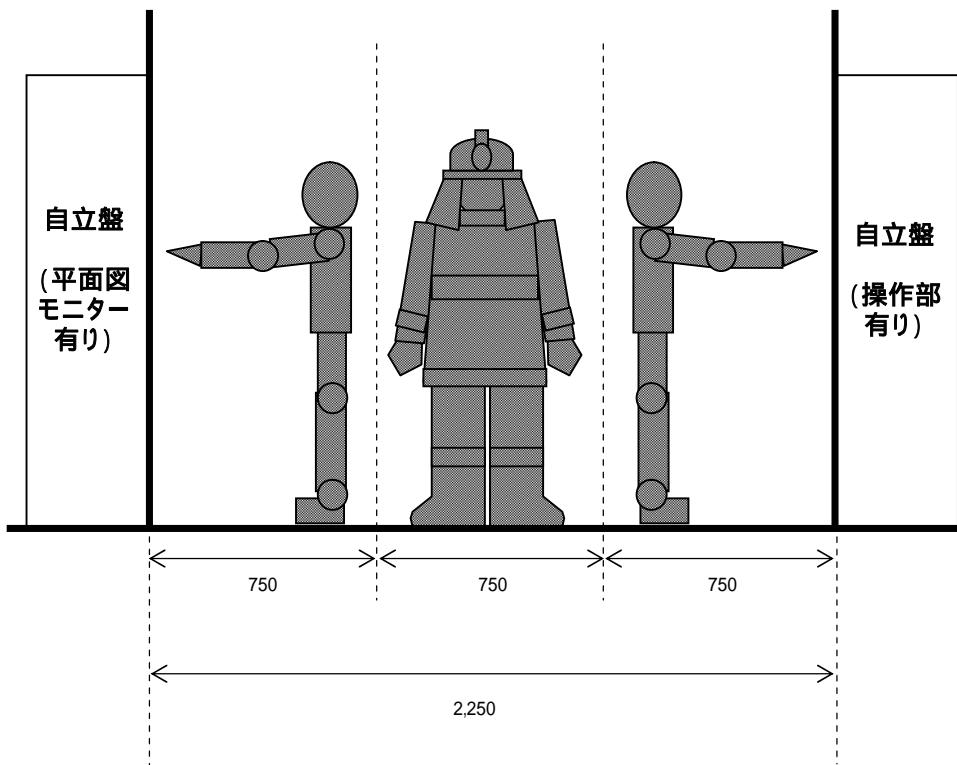
自立盤に平面図モニターが設置されている場合の自立盤と事務機の監視幅
約1.5m

監視スペースの幅について(自立盤・壁, 自立盤・自立盤 幅)



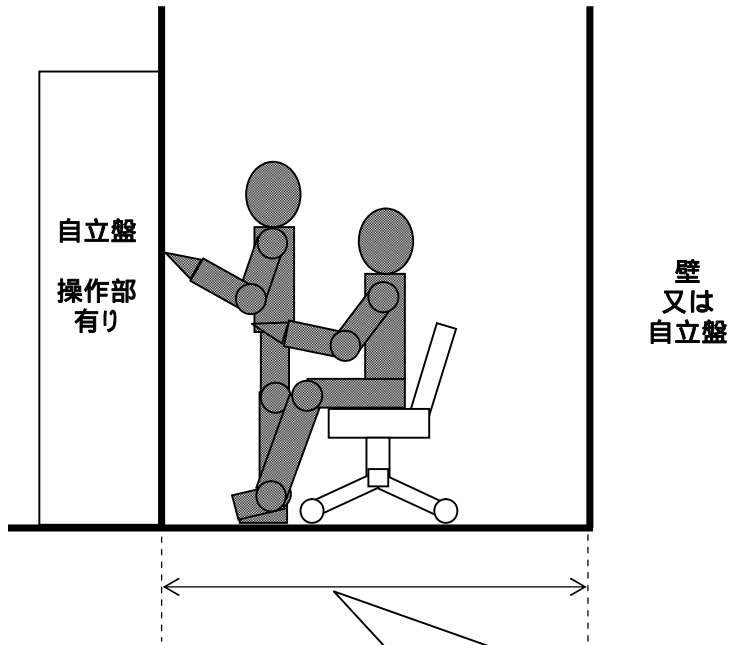
自立盤に平面図モニターが設置されている場合の自立盤と壁の監視幅
約1.5m

図中のレイアウトについては、非常時のみ監視・操作できるレイアウトであって、日常は、監視卓又は事務机を配置して監視できていないため、好ましいレイアウトとはいえない。



自立盤に平面図モニターが設置されている場合の自立盤と自立盤の監視幅
約2m
(要員の操作幅(750mm)の多少の余裕を考慮)

例外

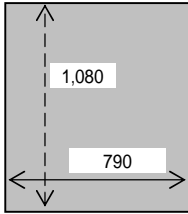


自立盤の目前に椅子を置いて常時監視することはなく、監視卓又は事務機が必要となるため、図のようなケースの監視幅は想定しない。

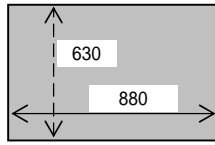
ただし、監視目的ではなく通路的に使用する場合の幅の規定は行う

消防隊活動スペースについて(面積)

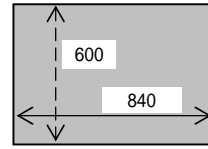
消防隊が使用する図面等の種類



災害情報収集管理表

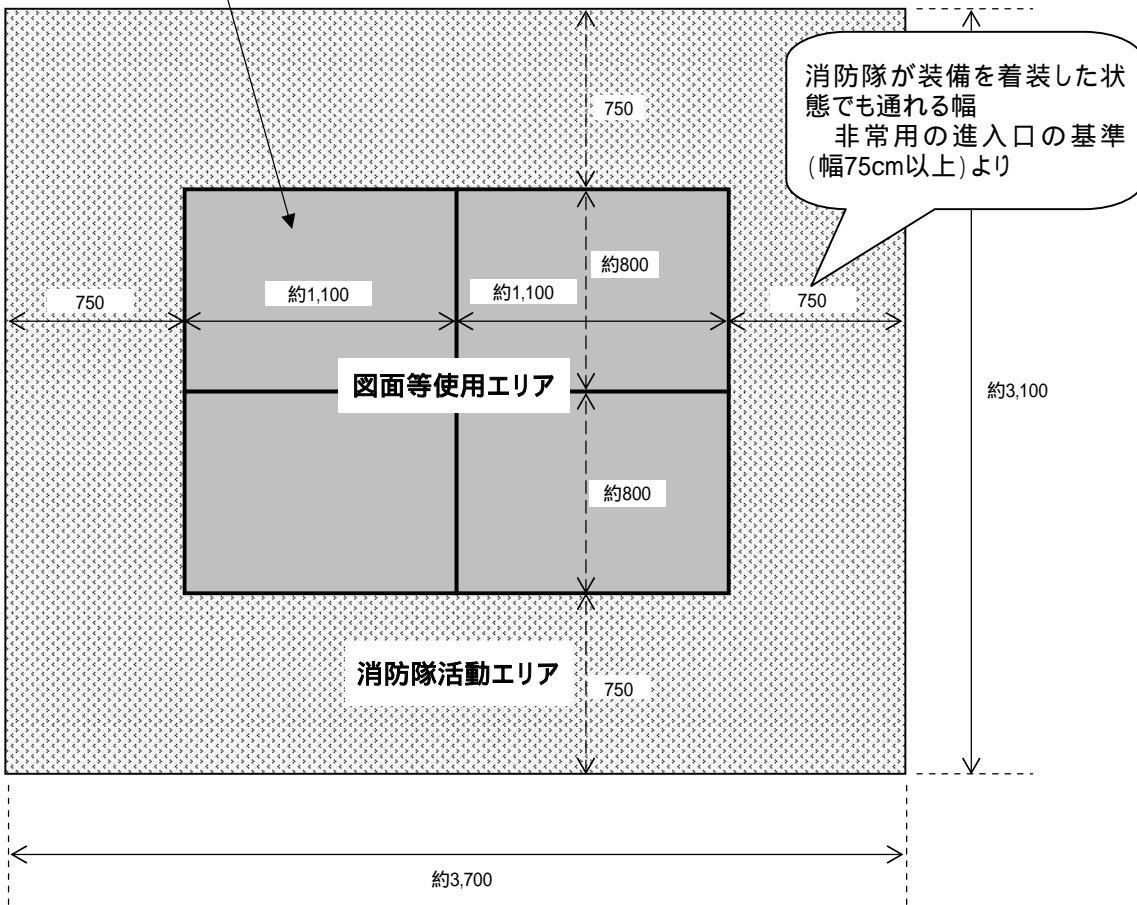


方眼紙(建物の簡略図等をフリーハンドで記載)

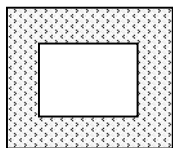


傷病者一覧表

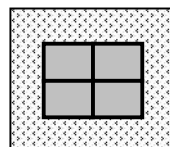
サイズの最も大きいもの
(4面使用することもあることを考慮)



図面等使用エリア
3.52㎡



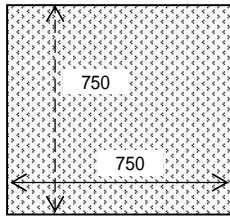
消防隊活動エリア
7.95㎡



全体
11.47㎡

消防隊活動スペースとして必要な面積
約12㎡

消防隊活動スペースとして必要な面積(12㎡)の妥当性について



消防隊員1名に必要な面積
0.5625㎡

消防隊員1名に必要な面積
約0.6㎡

防災センターに進入してくる消防隊員(指揮隊)
第2出場があった場合

- ・大隊長
- ・指揮担当
- ・情報担当
- ・伝令
- ・情報員

・先着隊(ポンプ担当・中隊長)

・第2出場指揮隊員 × 2

防災センターに進入してくる消防隊員(指揮隊)数
約8名

防災センターに進入してくる消防隊員
(指揮隊)数に応じて必要な広さ
(図面等使用スペース除く)

消防隊員1名に必要な面積
0.6㎡

×

防災センターに進入してくる消防隊員(指揮隊)数
8名

= 4.8㎡

消防隊活動エリア
7.95㎡

消防隊活動エリアで対応できる消防隊員数の最大数
(図面等使用スペース除く)

消防隊活動エリア
7.95㎡

÷

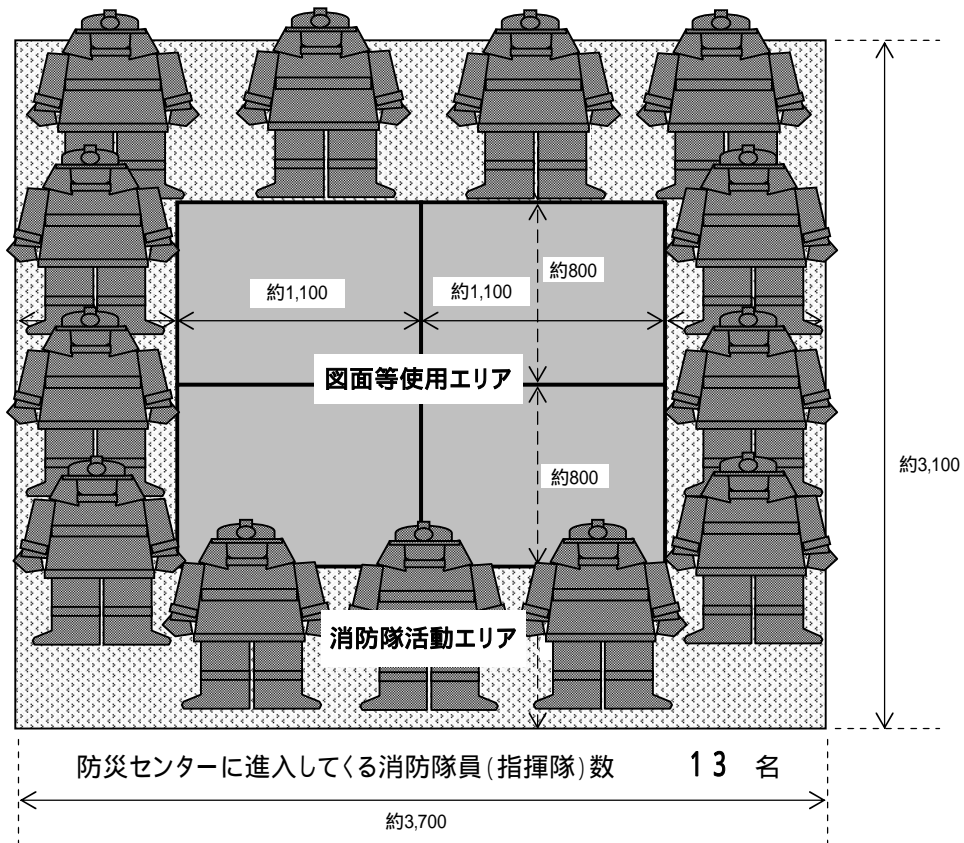
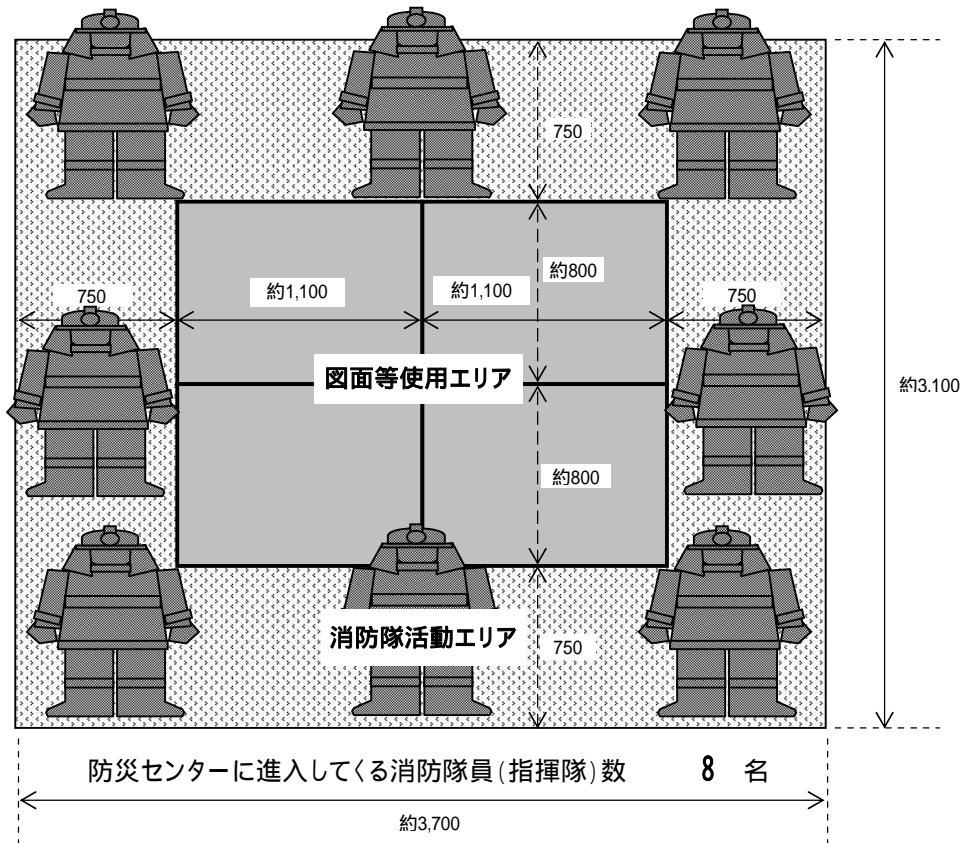
消防隊員1名に必要な面積
0.6㎡

= 13.25

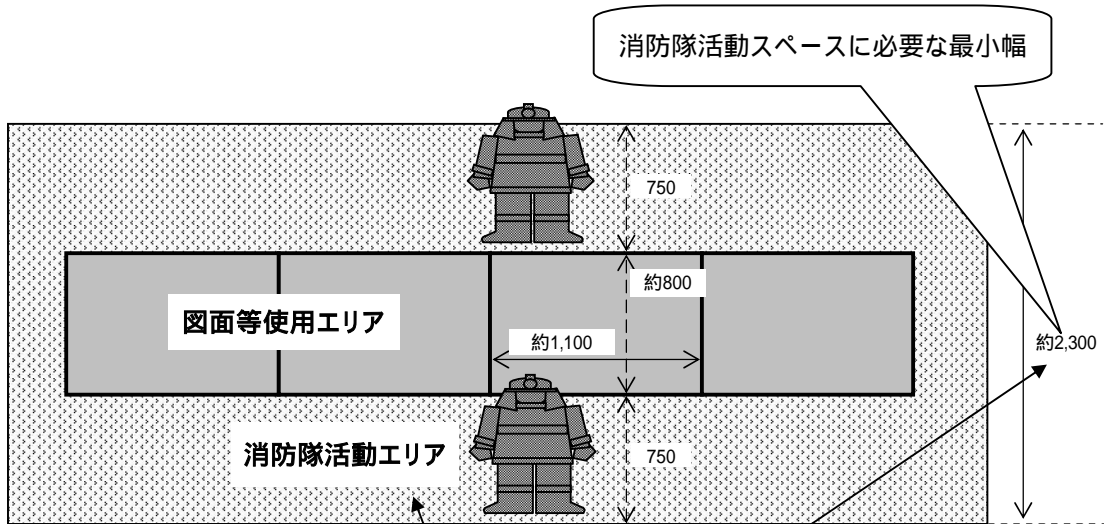
13人

防災センターに進入してくる消防隊員(指揮隊)数8名というのはあくまで一般的な隊員数である。災害の状況等により隊員数は増員することもある。しかし、上記面積においては最大13名進入可能となるため増員対応できていると考えられる。

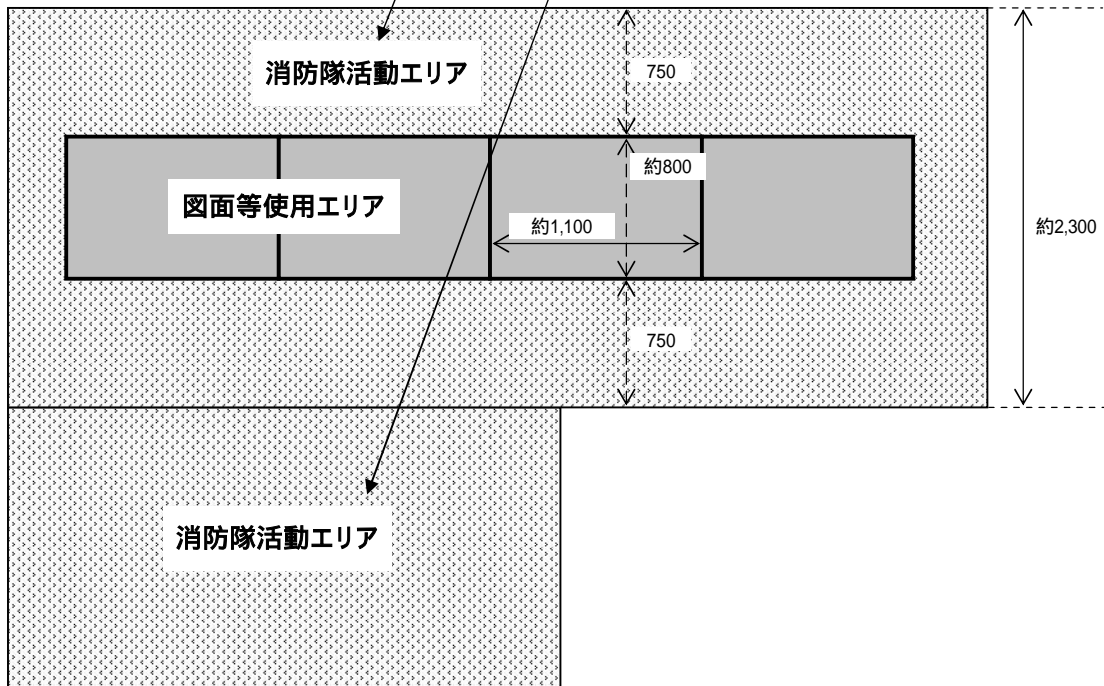
消防隊活動スペースとして必要な面積約12㎡に対する消防隊員の配置概念図



消防隊活動スペースについて(幅)

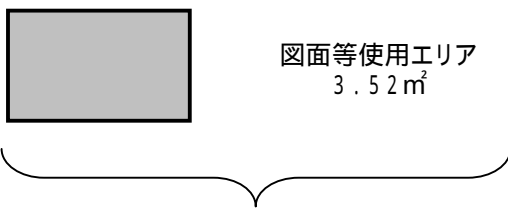
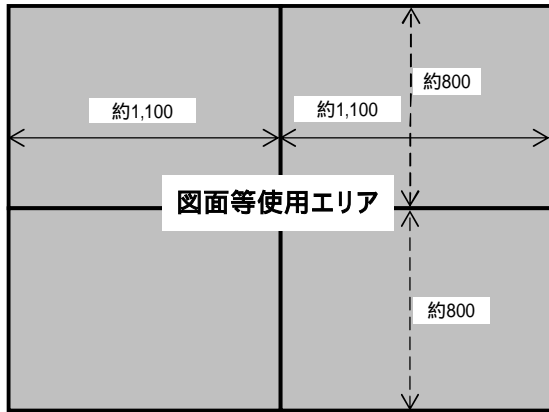


消防隊活動スペースに必要な最小幅は約2mであるが、消防隊活動スペースとして必要な面積(約12㎡)については確保する必要がある。

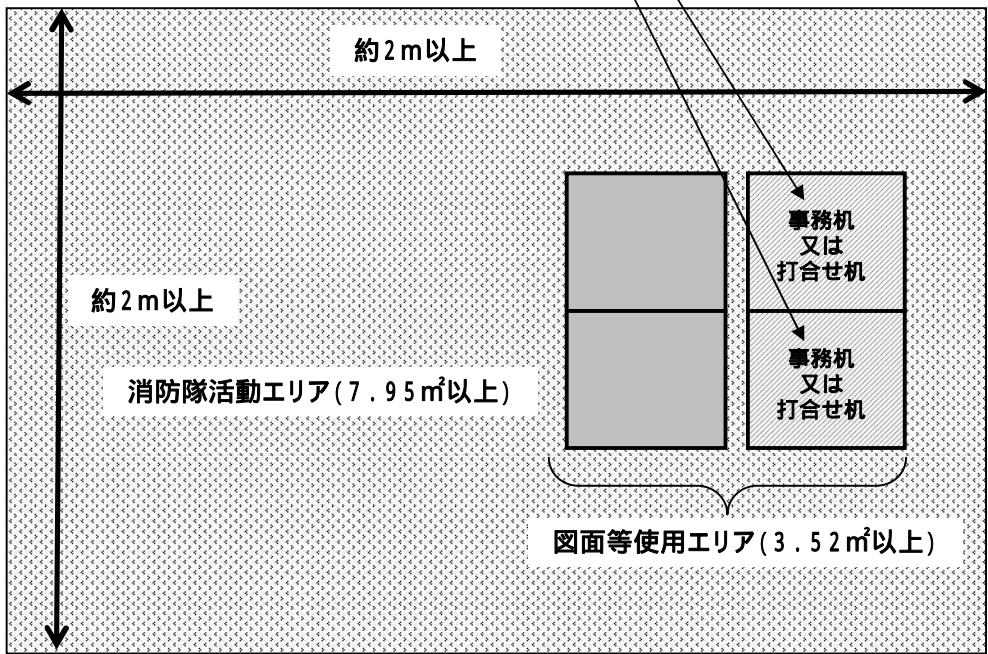


消防隊活動スペースとして必要な面積は約12㎡
 消防隊活動スペースに必要な最小幅は約2m

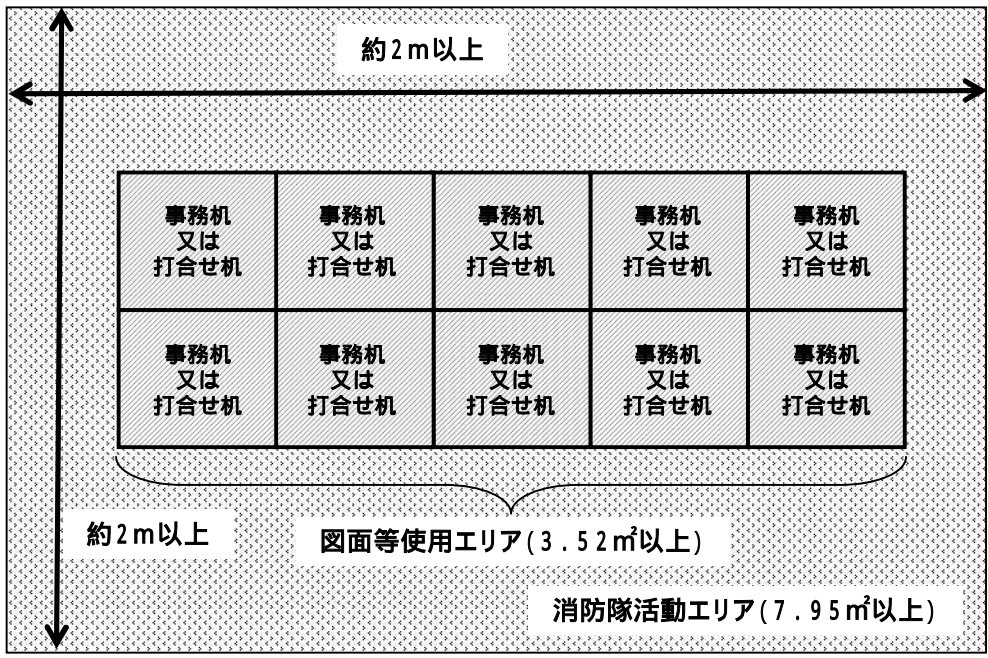
図面等使用エリアの扱いについて



日常何も物を置かない空白スペースのほか、事務机(日常机の上に物を置いていないものに限る)又は打合せ机を図面等使用スペースに含んでもかまわない。



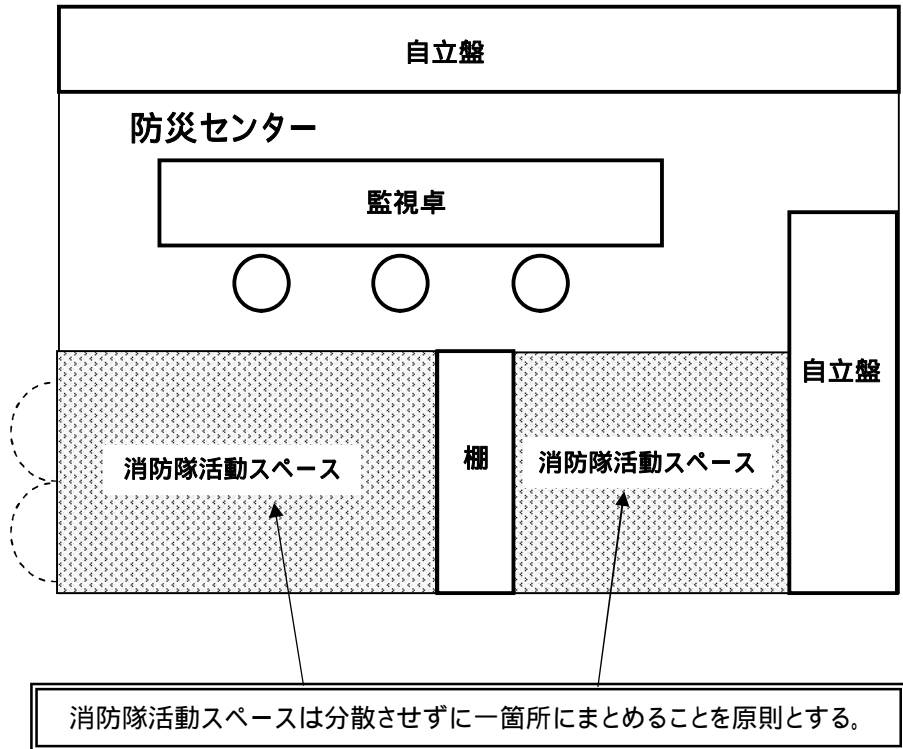
消防隊活動スペース(約12㎡以上)



消防隊活動スペース(約12㎡以上)

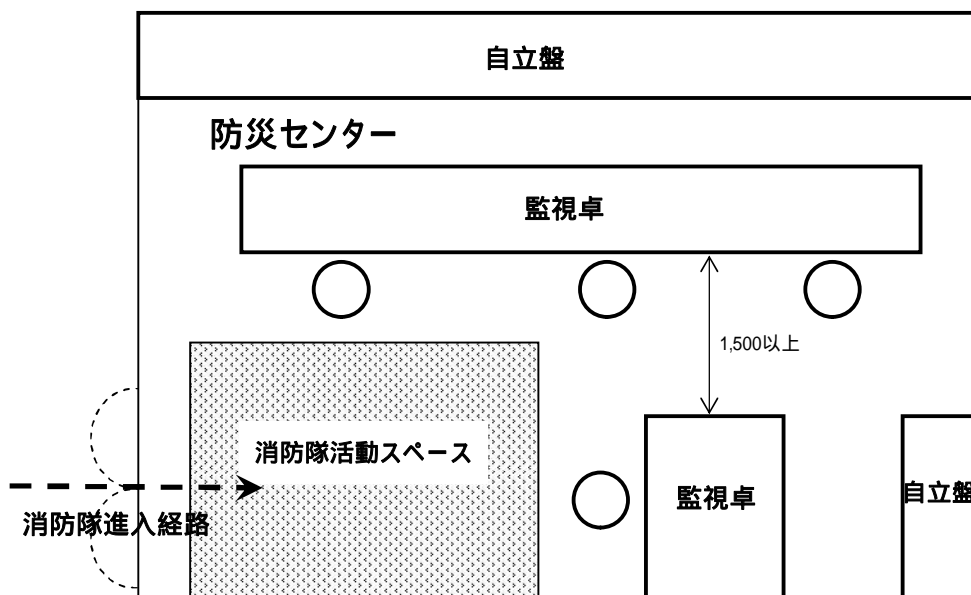
図面等使用エリアを事務機(日常机の上に物を置いていないものに限る)又は打合せ机で代用することは可能であるが、事務機等のスペースが広すぎて消防隊活動エリアが7.95㎡未満とならないようにして消防隊活動スペース約12㎡を確保すること。

その他の原則事項

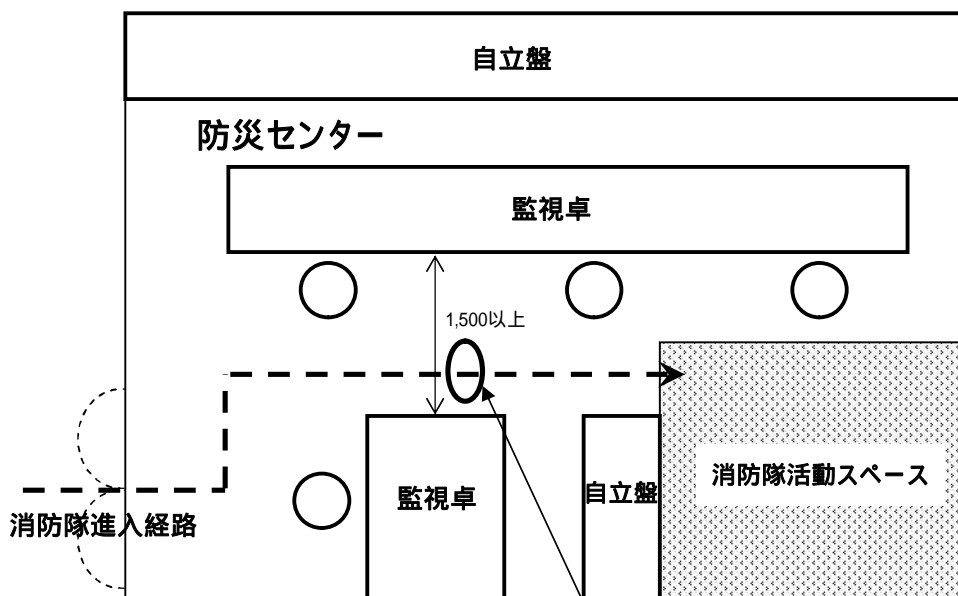


消防隊進入動線スペースについて

出入口付近に消防隊活動スペースがある場合

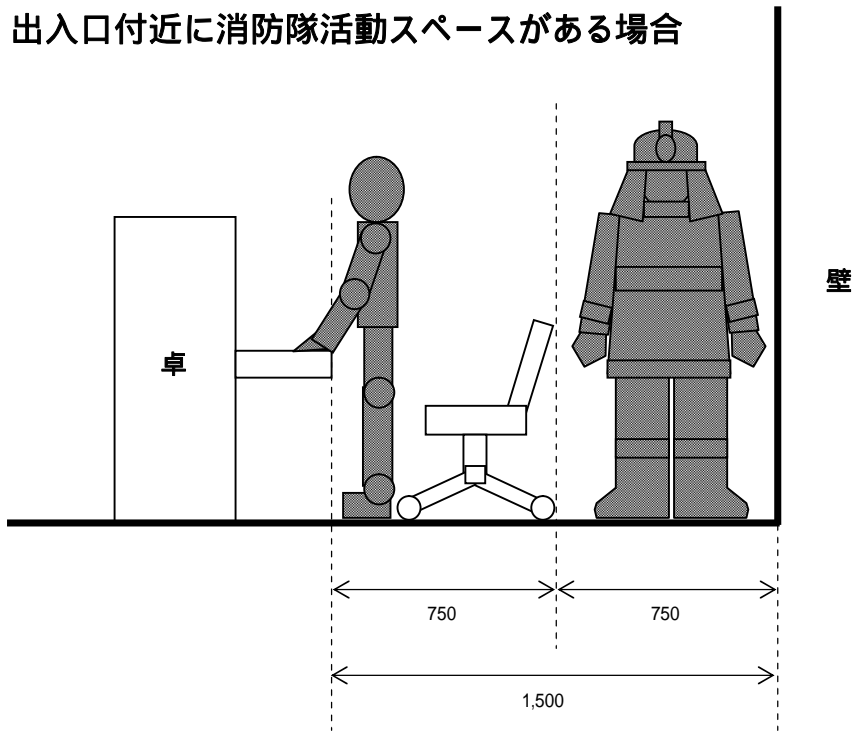


出入口奥側に消防隊活動スペースがある場合

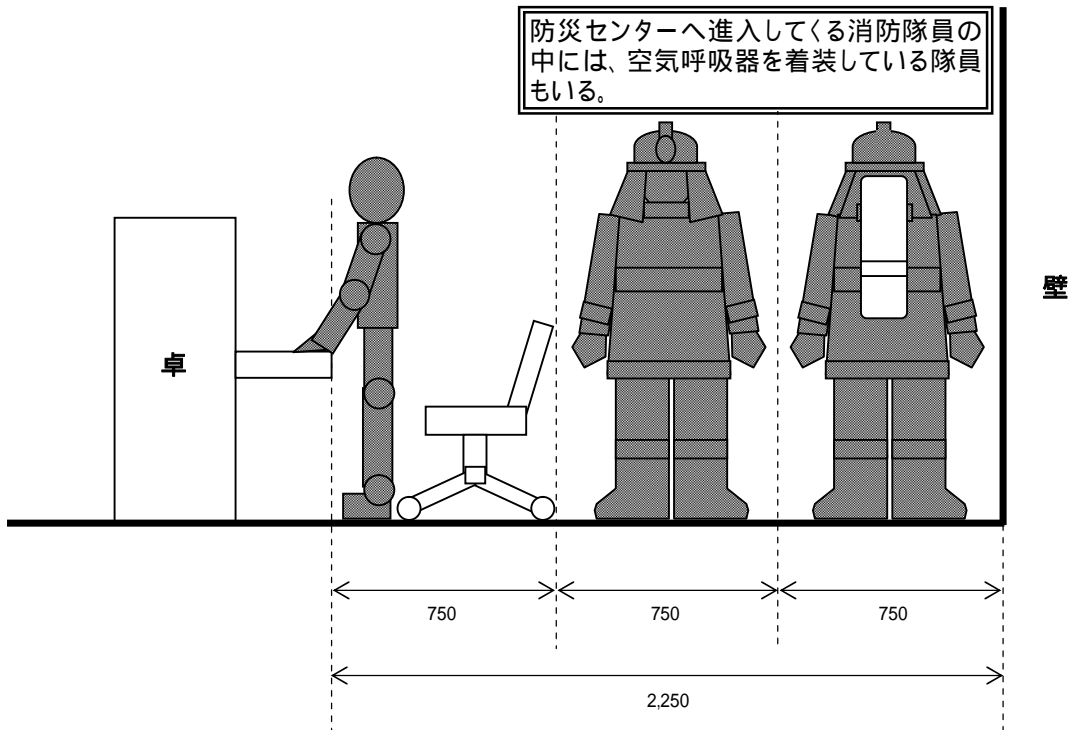


卓から壁までに必要な幅は1.5m以上、卓から操作部のある自立盤までに必要な幅は2m以上必要であるが、この幅はあくまでも防災要員が監視・操作できる幅、操作部を操作している防災要員の背部を消防隊(1名)が装備を着装した状態でも通れる幅又は防災要員に指示できる幅である。防災センター出入口から消防隊活動スペースまでの消防隊進入動線については別途用意する必要があると考えられる。

出入口付近に消防隊活動スペースがある場合

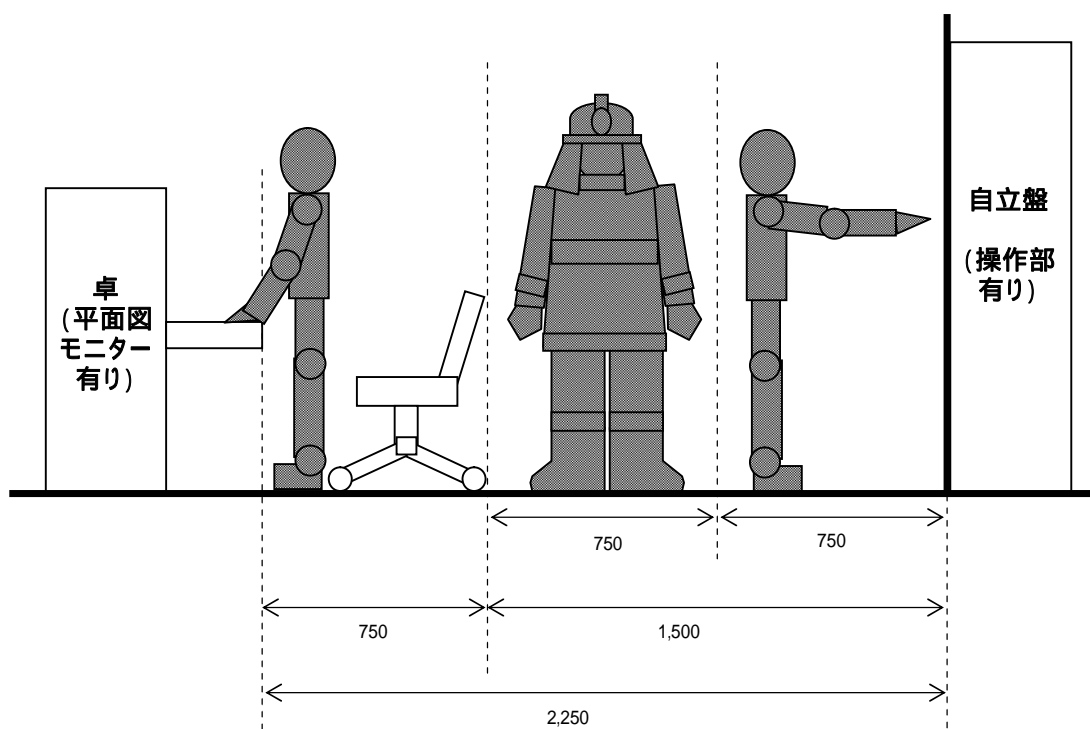


出入口奥側に消防隊活動スペースがある場合 (動線スペースを確保する必要有り)

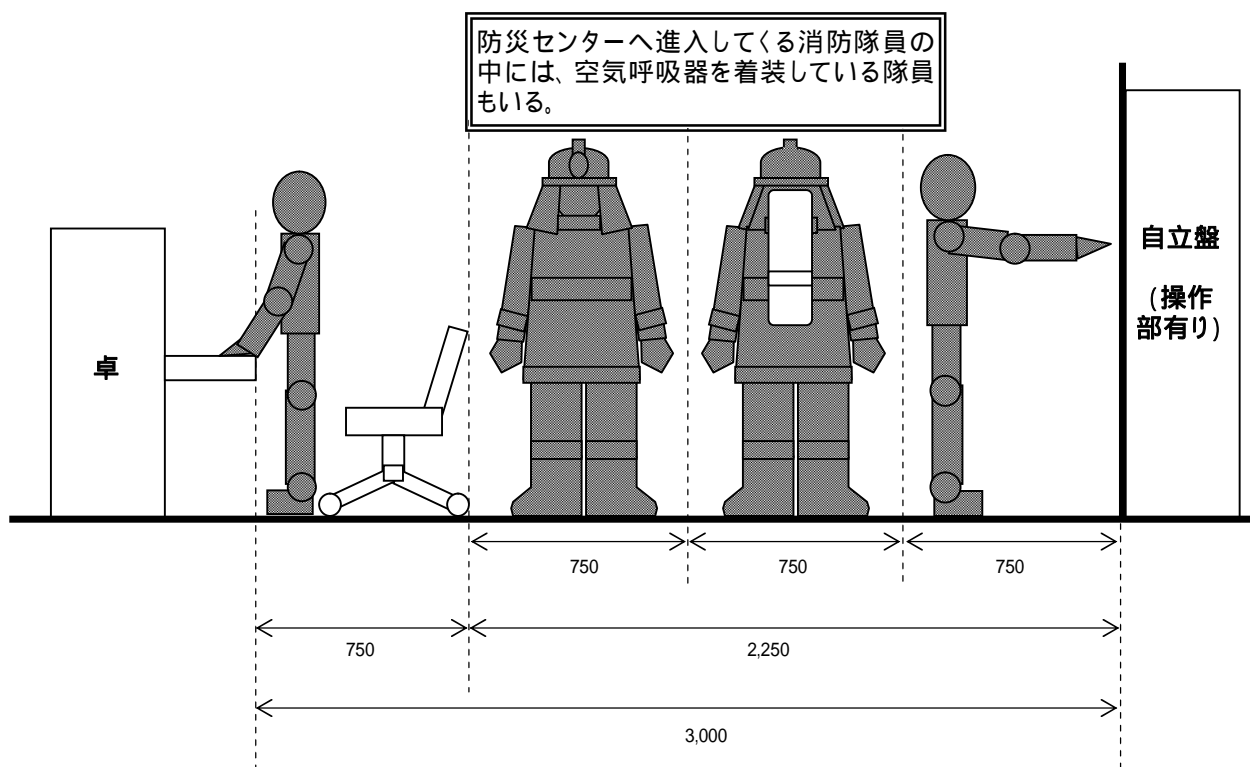


消防隊活動スペースまでの動線として消防隊員2名がすれ違える幅(1.5m)を確保

出入口付近に消防隊活動スペースがある場合



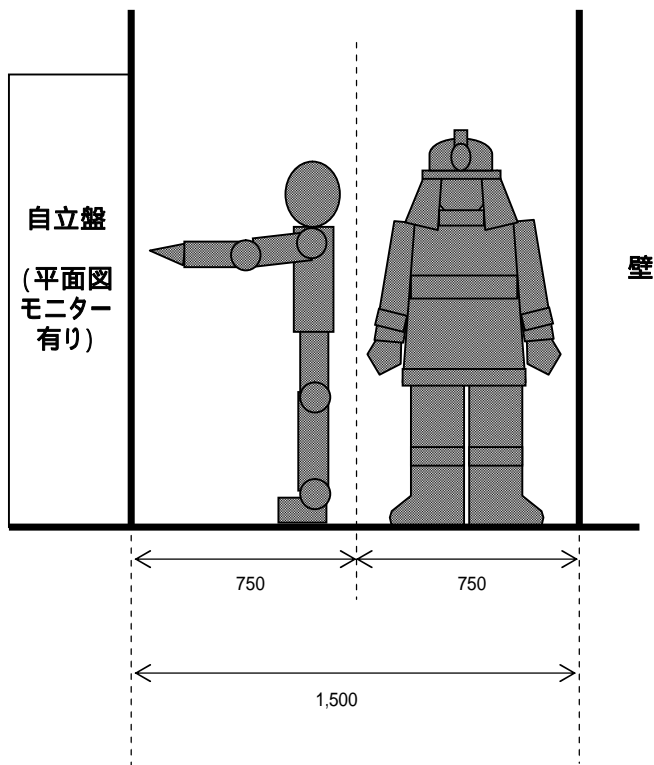
出入口奥側に消防隊活動スペースがある場合 (動線スペースを確保する必要有り)



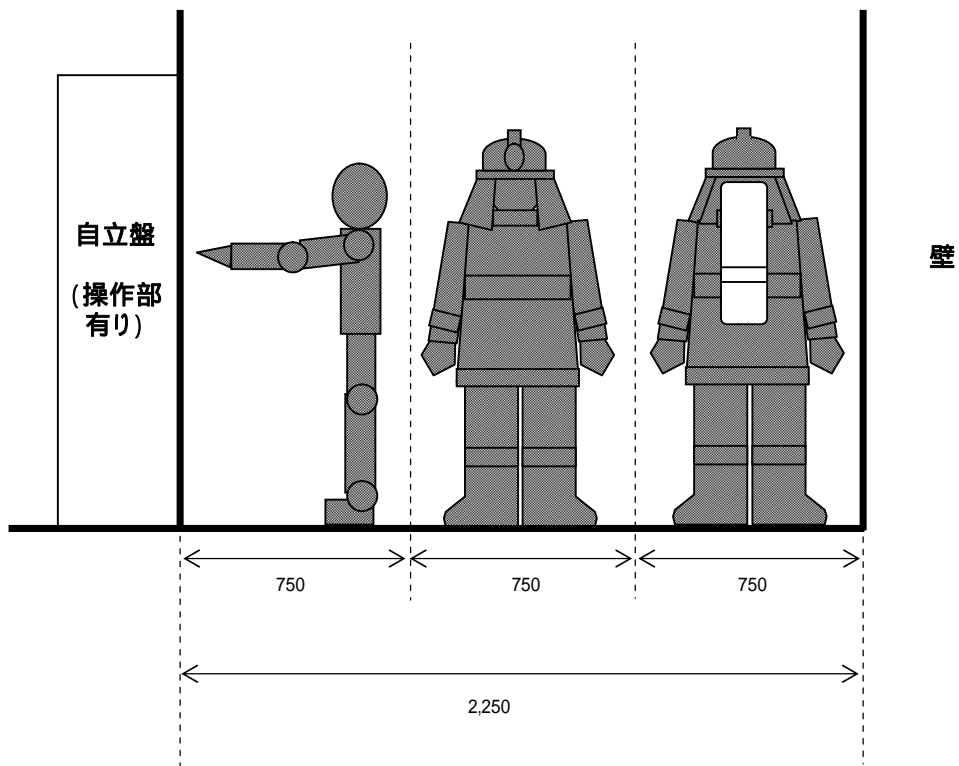
消防隊活動スペースまでの動線として消防隊員2名がすれ違える幅(1.5m)を確保

消防隊活動スペースは防災センター出入口付近に設け、消防隊活動スペース直近に総合操作盤の平面図モニターを設置することが、非常時最も防災センターの使用上有効と考えられる。

出入口付近に消防隊活動スペースがある場合

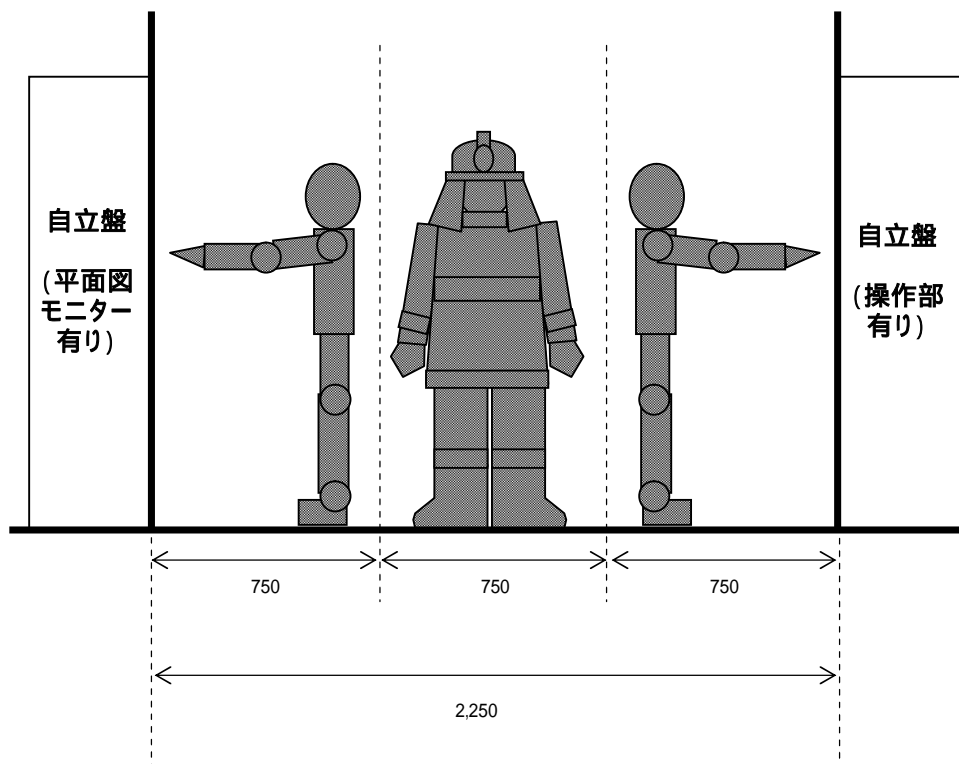


出入口奥側に消防隊活動スペースがある場合
(動線スペースを確保する必要有り)

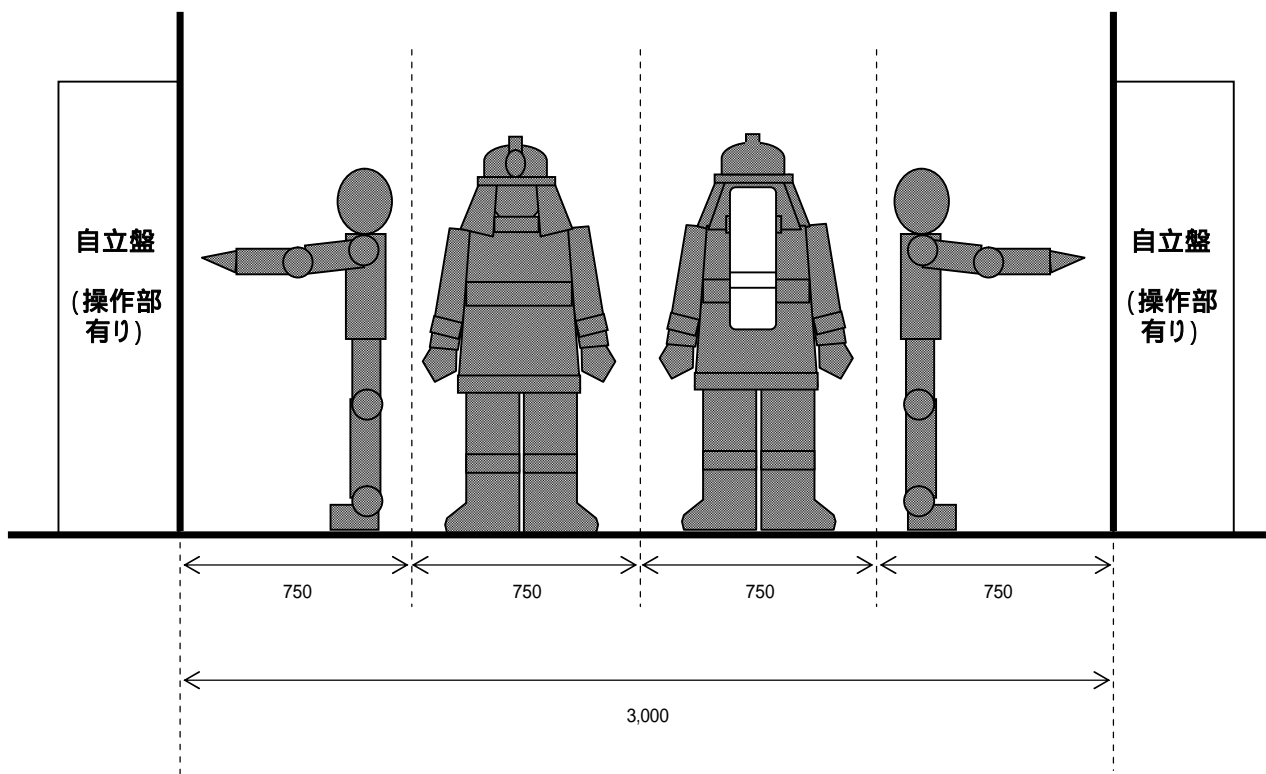


消防隊活動スペースまでの動線として消防隊員2名がすれ違える幅(1.5m)を確保

出入口付近に消防隊活動スペースがある場合



出入口奥側に消防隊活動スペースがある場合
(動線スペースを確保する必要有り)



消防隊活動スペースまでの動線として消防隊員2名がすれ違える幅(1.5m)を確保

防災センターの活動スペースのあり方

平成 17 年 6 月 作 成

問い合わせ先

社団法人 東京消防設備保守協会

< 略 称 > 保 守 協 会

評 価 事 業 部 評 価 室

〒162-0805 東京都新宿区矢来町81-3

TEL 03-5261-4181

FAX 03-5261-8336